

# 市街地のみどりの環境

つくられてから年数をへた都市公園などは、樹木が大きく育つにつれて昆虫の種類も増加し、またそこでみられる鳥の種類も多くなるなど、都市に自然を取りもどすうえで重要な緑地です。また、交通の便利さもあって最も手近な観察場所として位置づけられるようになってきました。

## 都市公園

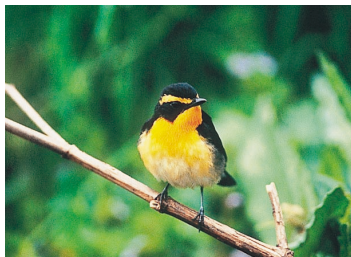
大阪城公園や鞆公園<sup>うつぼ</sup>など都市の中にある緑地は、キジバトやスズメ、ヒヨドリなど1年中みられる鳥たちの良い生活場所であるだけでなく、渡り鳥や旅鳥の重要な休息場所としての役割があります。そのために、鳥の渡りの時期には、普段<sup>ふだん</sup>はみることのできないキビタキやオオルリ、アオバズクなどの山にいる鳥を身近に観察できることがあります。



134. 大阪城公園



135. オオルリ



136. キビタキ

すいたし ばんぼくきねんこうえん  
吹田市の万博記念公園の林は、植えられてから30年がたち、今では人工的につくられたとは思えないほど立派な林となっています。ここでは、カワセミやアオバト、キジ、オオタカなどのたくさんの種類の鳥がみられ、多くの人が観察に訪れています。



ばんぼくきねんこうえん  
137. 万博記念公園の林

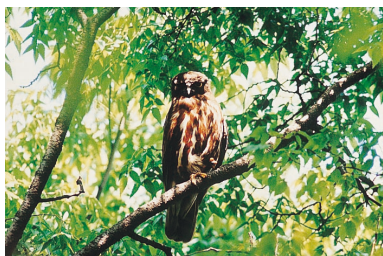


138. キジ

## ちんじゆ しゃじりん 鎮守の森や社寺林

近くの神社の鎮守の森や社寺林も、身近な自然です。ここの林は、長い間伐採されずにまもられてきたことから、多くの場合、しょうようじゆりん しょうよう樹林についてはP. 16で説明しましたが、クスノキやヤブツバキ、シイ・カシ類などが多い林で、おごそかな鎮守の森とよぶにふさわしい環境がみられます。

ほら 洞のある大きな木には、フクロウやアオバズク、ムササビなどがすみついていることがあります。また、珍しい生きものが残されていることもあり、大阪府レッドデータブックの作成途中の調査で発見された、新種の陸産貝類“ナニワクチミゾガイ”も高槻市の社寺林でみつかったものです。



139. アオバズク



140. ナニワクチミゾガイ